

IX 史料編集事業

1. 事業概要

(1) 史料編集班の沿革

復帰前の昭和42年(1967)琉球政府立沖縄史料編集所が創設され、復帰とともに沖縄県沖縄史料編集所と改称。昭和61年(1986)行政改革により県立図書館に併合され、沖縄県立図書館史料編集室と改組、平成7年(1995)沖縄県公文書館の設置に伴い移転、翌8年、史料編集業務が教育庁文化課所管の委託業務となり財団法人沖縄県文化振興会公文書館管理部(後に公文書管理部)史料編集室となる。平成19年(2007)指定管理者制度導入に伴い財団法人沖縄県文化振興会史料編集室と改名、平成23年(2011)組織改編により教育庁直轄となり、沖縄県教育庁文化財課史料編集班となる。

(2) 歴代宝案の編集・刊行

『歴代宝案』は、中・近世の444年にわたる外交文書集で、歴大かつ難解な漢文史料であるが、沖縄の対外通交貿易史および外交交渉史を解明するうえで第一級の史料であり、東アジア世界の動向をも知りうる貴重な史料である。歴代宝案編集事業の目的は、本文を校訂し、訳注本を作成して、これを利用しやすい形に編集することによって、今後の歴史研究の進展に役立て、あわせて一般への普及を図り、国際化時代における県勢発展の基礎資料として活用できるようにすることにある。

沖縄県教育委員会では、平成元年度(1989)から『歴代宝案』の編集事業に着手し、平成3年度(1992)から刊行を開始した。校訂本は諸本を校合し異同を注記した本を15冊、訳注本は校訂本の漢文を全文読み下し文に改め、語注やルビを付し、『歴代宝案』の理解を補完するもので同じく15冊、計30冊の刊行を予定している。これまでに校訂本15冊、訳注本10冊の合計25冊、歴代宝案編集参考資料17冊を刊行した。平成24年度から沖縄振興特別推進交付金による「琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業」として採択され、歴代宝案の編集刊行が大きく推進されることとなった。

(3) 沖縄県教育委員会と中国第一歴史档案館との「協議書」に基づく交流事業

歴代宝案の編集作業においては、国内外の関連史料も参照することが必要不可欠である。中国に残る膨大な琉球関係資料を活用するため、平成3年(1991)3月、「清代の档案マイクロフィルムの相互交換に関する覚書」の調印が行われた。その後「覚書」を「協議書」と改め、平成27年には6度目の調印が交わされた。これまで10回にわたってマイクロフィルムの提供があり、総計は3,323件、1万1,571コマにのぼる。また、沖縄と北京で交互にシンポジウムを開催し、これまでに11回開催され、『琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集』11冊を刊行した。毎年、档案館から参考人として研究者2名を招聘し、延べ50人が報告を行った。平成17年度(2005)から『中琉歴史関係档案』の出版委託を行い、36冊を刊行した。

(4) 新沖縄県史の編集・刊行

新沖縄県史編集事業は平成5年度(1993)にスタートした。先に刊行した「沖縄県史」は明治の琉球処分から沖縄戦までを取り扱った近代史であったが、「新沖縄県史」は、先史から現代までの全時代と自然環境等を対象とした体系的な歴史書を編纂し、沖縄の歴史認識、文化意識の一層の活性化を促すことを目的とする。

平成6年(1994)「新沖縄県史編集検討委員会」のもとで「新沖縄県史編集基本計画」がまとめられたが、その後平成9年(1997)「新沖縄県史編集委員会」が設置されて基本計画の見直しがなされ、平成10年(1998)「新沖縄県史編集基本計画」が策定された。平成22年(2010)、再び基本計画の見直しが諮問され、平成24年(2012)には新たな「基本計画」が策定された。

これまでに、「沖縄県史各論編」7冊、「沖縄県史資料編」25冊、「沖縄県史図説編」1冊、「県史ビジュアル版」13冊を刊行した。その他「沖縄県史研究叢書」、「概説 沖縄の歴史と文化」、「沖縄県史だより」や各種目録、紀要などを刊行するとともに、各種の資料収集調査を実施している。

②国外調査

1) 国立故宮博物院ほか史料調査 (台湾)

調査期間：平成28年8月7日(日)～11日(木)

調査場所：国立故宮博物院図書文献館・中央研究院

調査員：野村直美(指導主事)・漢那敬子(主任専門員)・赤嶺守・麻生伸一(調査員)

概要：○国立故宮博物院図書文献館において、①月摺档(道光30年～咸豊4年)20冊 ②奏摺档(咸豊元年正月～7年)17冊 ③外紀档(咸豊5・6年)3冊より歴代宝案訳註本に関わる資料調査

○中央研究院明清工作室において、①内閣大庫档案(順治11年～乾隆42年)を調査 ②明清档案デジタル化作業見学 ③歴代宝案のデジタル化とその利用についての座談会(当方調査員 台湾中央研究院側研究者 約30名)

2) 四川省・福建省史料調査 (中国)

調査期間：平成28年9月18日(日)～26日(月)

調査場所：福建省福州市・福安市、重慶市涪陵区

調査員：野村直美(指導主事)

概要：○四川省重慶市涪陵区にて冊封使周焯墓及び関係者聴き取り調査

○福建省福州市内にて冊封使齊鯤墓調査・齊氏宗祠調査

○福安市にて陳氏墓・族譜調査(冊封使齊鯤に同行した遊撃陳玉龍の記載あり)

(4) 近代沖縄史料調査収集事業 (沖縄振興特別推進交付金事業)

①石垣市ほか史料調査

調査期間：平成28年6月20日(月)～6月22日(水)

調査場所：石垣市教育委員会(市史編集課)・石垣市立八重山博物館・竹富町教育委員会総務課町史編集係・石垣市立図書館

調査員：当山昌直(主査)・城間恒宏(指導主事)

概要：近代沖縄史料(主として新聞)の所在と保管状況の調査。事業の内容や取り組みの説明と今後の協力依頼

②東京大学ほか史料調査

調査期間：平成28年8月8日(月)～8月11日(木)

調査場所：東京大学総合研究博物館・東京大学(近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫)・東京大学理学部生物学図書室・首都大学東京牧野標本館・日本新聞博物館・東京都立中央図書館

調査員：当山昌直(主査)・城間恒宏(指導主事)・本村育恵(非常勤職員)・佐治暁人(非常勤職員)

概要：東京における近代沖縄史料(主として新聞)の所在と保管状況の調査。また事業の内容や取り組みについて説明し、今後の事業への協力依頼を行う。

③東京大学ほか史料調査

調査期間：平成28年10月17日(月)～10月21日(金)

調査場所：東京大学総合研究博物館

調査員：外間みどり(主幹)・当山昌直(主査)・盛本勲(主査)・本村育恵(非常勤職員)・佐治暁人(非常勤職員)・赤嶺香澄(非常勤職員)

概要：東京大学総合研究博物館が所蔵する植物標本が挟まれていた戦前の新聞(未整理分含む)の中から、沖縄の新聞を探し出す。また琉球関係記事が掲載されるものを調査。

④東京大学ほか史料調査

調査期間：平成29年2月14日(火)～2月17日(金)

調査場所：東京大学理学部生物学図書室・国立国会図書館

調査員：当山昌直(主査)・城間恒宏(指導主事)・赤嶺香澄(非常勤職員)

概要：東京大学理学部生物学図書室における近代沖縄史料の調査と撮影。国立国会図書館所蔵の戦前

の琉球新報原紙のデジタル化業務にかかる調整。

⑤牧野植物園史料調査

調査期間：平成29年2月27日（月）～3月2日（木）

調査場所：高知県牧野植物園

調査員：当山昌直（主査）・城間恒宏（指導主事）・本村育恵（非常勤職員）

概要：牧野植物園が所蔵する植物標本が挟まれていた新聞（約180箱の段ボール）から沖縄関係の新聞を調査する。

(5) 歴史資料のデジタル化（沖縄振興特別推進交付金事業）

①琉球関係档案史料のデジタル化・テキスト化（清代琉球関係档案四編 649頁）

②歴代宝案訳註本第1冊のテキスト化（734頁）

③歴代宝案訳註本第2冊のテキスト化（634頁）

④歴代宝案校訂本第3冊(600頁)・4冊(624頁)・5冊(630頁)・6冊(624頁)・7冊(576頁)・11冊(618頁)・12冊(622頁)・13冊(570頁)のデジタル化（画像データ化） 計 4,864頁

(6) 諸外国との交流に関する歴史史料の編集・刊行（ベッテルハイム日記翻訳）

『沖縄県史 資料編22 The Journal and Official Correspondence of Bernard Jean Bettelheim 1845-54 Part II (1852-54)』の翻訳（全624頁中、593～678頁までの85頁分の翻訳）